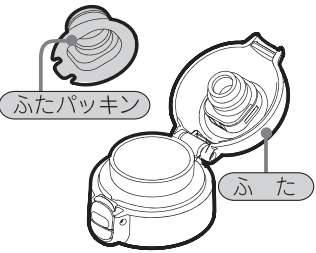


パッキンの取り付け方 正しく取り付けられないと、もれの原因となります。

お手入れなどで、ふたパッキンやせんパッキンを取りはずした後は、次の内容を読んで正しく取り付ける。

ふたパッキンの取り付け方

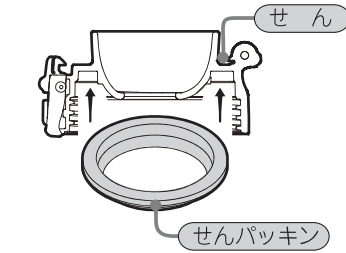
ふたパッキンの凹部をふたの凸部にしっかりと押し込む。



※正しく取り付けないと、飲みものもれの原因となります。

せんパッキンの取り付け方

せんにはめ込み、指でまんべんなく押さえ、浮いていないことを確かめる。



赤サビ状の斑点や水アカなどのお手入れ

使用中、水質や不純物などにより本体内部に「赤サビ状の斑点」が出たり「水アカ」が付着することがあります。このような場合は、以下の手順でお手入れしてください。

- ①規定量の熱湯にクエン酸を約10g加える。
 - ②約3時間後に柄のついたスポンジブラシなどで内側を洗い、水で十分にすすぐ。
 - ③十分に乾燥させる。
- ご使用前、およびお茶や糖分を含んだものなど、湯(水)以外のものを入れてご使用になった場合には、十分にお手入れをしてください。においを防ぎ清潔にご使用いただけます。
 - 他のものと一緒に手入れをするときは、製品が傷つかないようにご注意ください。

こんなときは

次の項目について確認をおこなってください。いずれの場合もあてはまらない場合は、お客様相談窓口へご相談ください。

症 状	確認するところ	処 置
■ふた・せんからもれる	ふたパッキン・せんパッキンが正しく、しっかり取り付けられていますか。	パッキンの取り付け位置や方向、浮きがないことを確認してください。
	安全ロックやせんがしっかりとしまっていますか。	しっかりとしめなおしてください。
	ふたパッキン・せんパッキンが汚れていませんか。	「お手入れの方法」を参考にし、お手入れをしてください。
	飲みものを入れすぎているか。	規定量になるまで飲みものを減らしてください。
■飲みもの(本体内側・せん)がにおう	飲みものを長時間入れたままにしたり、本体内部、せんユニットやパッキンに茶しぶなどの汚れが付着していませんか。	「お手入れの方法」を参考にし、お手入れをしてください。汚れが落ちにくい場合はクエン酸をご利用ください。
■保温(保冷)が効かない	十分に熱い(冷たい)飲みものを入れていますか。	十分に熱い(冷たい)飲みものを正しい量まで入れてください。

※せんユニット・ふたパッキン・せんパッキンは消耗品です。使用後半年から1年を目安にご確認ください。

アフターサービス部品について

本取扱説明書に記載されている製品の補修用性能部品の保有期間は、製造打ち切り後5年となっております。その他、製品に関してのお問い合わせにつきましては、お買い上げの販売店もしくは弊社のお客様相談窓口にてご相談ください。

消耗部品のご購入について

製品型名・容量・色柄・部品の正しい名称をご確認のうえ、下記方法でお求めください。(製品型名は製品底面に貼ってあるシールに記載されています。)

- ①ホームページ………トップページの交換用部品販売からお求めください。(取扱部品に限られておりますが、ご了承ください。)
- ②販売店………ピーコック製品を取扱っている販売店でお取り寄せください。
- ③お客様相談窓口……お電話もしくはFAXにてお申込みください。

部品名
AKH型 せんユニット(せん、せんパッキン、ふたパッキン)
AKH型 せんパッキン
AKH型 ふたパッキン

※各消耗部品については、各部のなまえの項目をご覧ください。

ホームページアドレス <https://www.the-peacock.co.jp>

お問い合わせ

お問い合わせ先

お客様相談窓口

受付時間

お問い合わせ先

お問い合わせ先

お問い合わせ先

お問い合わせ先

お問い合わせ先

お問い合わせ先

お問い合わせ先

お問い合わせ先

お問い合わせ先

お問い合わせ先

お問い合わせ先

お問い合わせ先

お問い合わせ先

お問い合わせ先

お問い合わせ先

お問い合わせ先



ピーコック魔法瓶工業株式会社

本社 〒553-0002 大阪市福島区鷺洲5丁目12番20号

Peacock

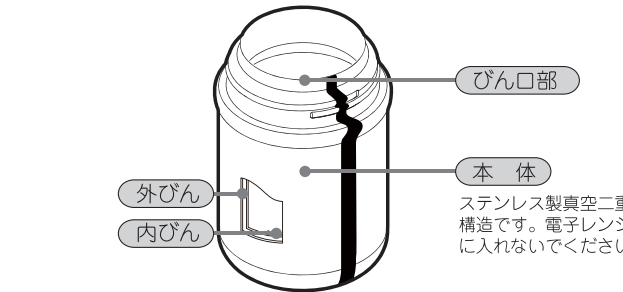
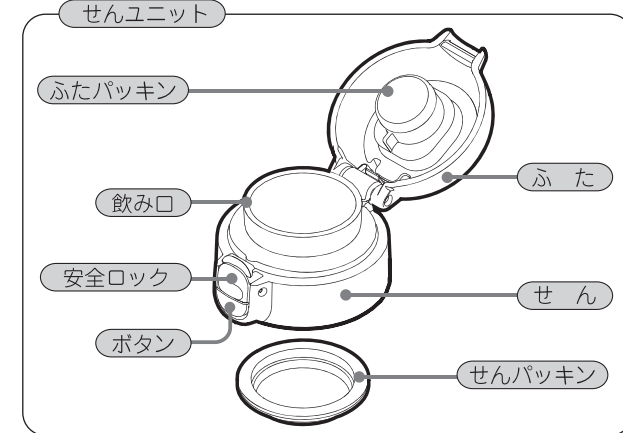
ステンレスボトル
チャージマグ

AKH

取扱説明書

このたびは、ピーコック製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございました。ご使用前にこの説明書を必ずお読みのうえ、正しくお使いください。

各部のなまえ



ステンレス製真空二重構造です。電子レンジに入れしないでください。



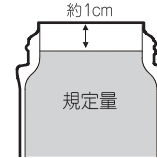
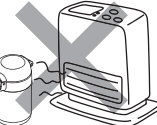


説明書中のイラストは、実際のものとは異なる場合があります。


後々のため、この説明書を大切に保管してください。①

安全上のご注意

もれやあふれはやけどや他のものを汚す原因となります。

飲みものの保温・保冷以外に使用しない

<p>乳幼児の手の届くところには置かない。またいたずらに注意する。</p>  <p>やけど・けがなど危険</p>	<p>熱い飲みものを入れた場合は、やけどのおそれがあるので注意する。</p>  <p>断熱効果により、熱いものを入れても本体外側は熱くなりません。</p>	<p>飲みものは、図の規定量までにする。</p>  <p>約1cm 規定量</p> <p>入れすぎると、もれ・あふれ・やけどのおそれ。</p>
<p>ストーブやコンロなど火のそばに近づけない。</p>  <p>変形・変色の原因。</p>	<p>熱いやかんをびん口に触れさせない。</p>  <p>転倒しやけどなどのおそれ。傷・変形の原因。</p>	<p>倒したり、落したりぶつかけたり、強い衝撃を与えない。</p>  <p>破損・保温(保冷)効果の低下・サビ・塗装はがれ・飲みものがもれる原因。</p>

- 絶対に入れない**
- **ドライアイス・炭酸飲料など**
本体内の圧力が上がり、せんユニットがあかなかったり、飲みものがふき出したり、部品が破損して、けがなどのおそれ。
 - **みそ汁やスープなど、塩分を含んだもの**
サビ・保温(保冷)効果の低下の原因。
 - **牛乳・乳飲料・果汁など**
腐敗・変質・サビの原因。そのまま長く放置した場合、腐敗・変質によりガスが発生して、本体内の圧力が上がり、飲みものがふき出したり、部品が破損してけがなどのおそれ。
 - **果肉・お茶の葉など** もれなど故障の原因。
- 

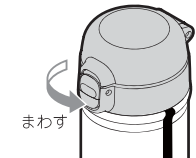
- **飲みものを入れた場合は、使用后、すぐにお手入れをする。**
外出時など十分なお手入れができないときでも、すぐに本体内側をよく水ですすぐ。帰宅後に、十分お手入れをする。カビの発生・サビ・穴あきなど故障の原因。

ご使用方法

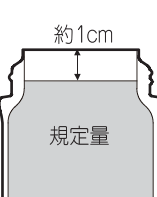
ご使用前にせんユニット・内びんを洗ってからご使用ください。

1 せんユニットをはずす

本体からせんユニットを矢印の方向にまわしてはずす。



2 飲みものを入れる

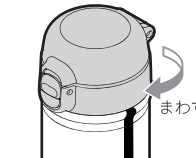


※あらかじめ少量の湯(冷水)を入れ、1分程度予熱(予冷)するとより効果的です。
※飲みものは図の規定量までにする。

飲みものを入れすぎてせんユニットをしめると、飲みものがふき出したり後からもれ出すことがあります。入れすぎた場合は、規定量になるまで飲みものを捨ててから、元どおりせんユニットをしめてください。

3 せんユニットをしめる

ふたをしめた状態で、せんユニットを矢印の方向にまわしてしめる。



4 ふたをあけて飲みものを飲む

①製品を立てた状態で安全ロックを上げる。

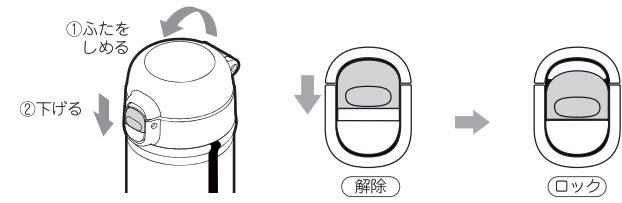


②ボタンを押してふたをあけ、ゆっくり傾けながら飲みものを飲む。



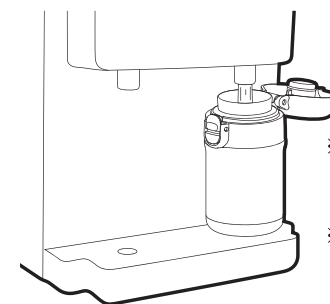
5 飲み終わったら

- ①飲み終わったら、製品を立てた状態でふたをカチッと音がするまで確実にしめる。
- ②安全ロックを下げて、ロックする。



せんをはずさず飲みものを入れる場合

飲みものが飲み口の穴に入るように入れる。



※熱い飲みものを入れる際は飛び散りに十分注意してください。やけどのおそれ。

※せんをはずさず飲みものを入れる場合、入れすぎると飲み口の穴から急に中身があふれることがあります。飲みものの量には十分注意してください。もれ・やけどなどのおそれ。

飲みものを入れすぎてふたをしめると、飲みものがふき出したり、後からもれ出すことがあります。入れすぎた場合は、規定量になるまで飲みものを捨ててください。

お手入れの方法

- ◆ご使用後は、必ずその日のうちにお手入れする。
- ◆お手入れをするときは、やわらかいスポンジ以外は使用しない。
- ◆においを防ぐため、こまめにお手入れをする。

本体外側・せんユニット

本体、せんユニットをぬるま湯か水で丸洗いし、すぐに乾いた布で水分をふきとる。※つけ洗いはしない。

本体内側

柄のついたスポンジブラシなどできれいに内側を洗い、十分に乾燥させる。

パッキン

パッキンをせんやふたから取りはずし、ぬるま湯か水で丸洗いし、乾いた布で水分をふき取る。その後「パッキンの取りつけ方」を参考にして、せんやふたに確実に取りつける。(パッキン表面にゴミなど付着していると、もれの原因)

お手入れ上の注意

お手入れ前によくお読みのうえ、必ずお守りください。

- 塩素系漂白剤は使用しない。サビ・穴あきなど故障の原因。
- 本体外側は、漂白剤を使用しない。
- 本体内側に酸素系漂白剤を使用する際は、せんユニットを取りつけない。本体の内圧が上がり、せんユニットが飛び出すなど危険。
- シンナー・ベンジン・金属たわし・たわし・みがき粉・クレンザー・化学ぞうきん・台所用以外の洗剤などは使用しない。傷・サビなど故障の原因。
- 本体・せんユニットの煮沸および食器洗浄機、食器乾燥機などの使用はしない。傷・サビ・変形・もれなど故障の原因。
- 本体は丸洗いできますが、つけ洗い(水中に放置)はしない。
- 本体を丸洗った後は、必ず水分をふきとる。ふきとらないと、水滴のあとが残ったり、サビや他のものを汚す原因。
- 長時間ご使用にならないときは、よくお手入れをして汚れを落とし、十分乾燥させて高温多湿を避けて保管する。